

刊行にあたって

岡田英樹 (立命館大学国際平和ミュージアム企画局長)

2002年度は、平和ミュージアム創設10周年にあたり記念すべき年であった。春の特別企画「REQUIEM——インドシナ写真展」、秋の「2002年度世界報道写真展」を記念企画と位置づけるとともに、学生たちを主体とした「2002世界学生平和フォーラム」もまた10周年記念行事の一環として取り組まれたのであった。いずれも大きな成果を残して成功裡に終えることができたが、次の10年、20年を見据えたとき、この間検討されてきた平和ミュージアムの高度化・リニューアル課題を実効あるものとして完成させることが、何よりも求められているといえるだろう。それは単に古くなった展示を更新する、問題ある表現を訂正するというレベルにとどまるものであってはならない。ミュージアムとしての情報集積・発信機能、教育・研究機能を飛躍的に向上させ、「過去の事象を知り」、「現在の状況を考え」、「未来に向かって創造する」総合的な平和ミュージアムを創りあげることであり、未来を担う子供たちに親しまれ、理解される展示手法を生み出すことであり、さらに地域との協働を進める方向もめざしながら、現在検討が進められている。

一方、全国の平和博物館9館が参加して開かれてきた「日本平和博物館会議」は、今年9回目を迎えた。ここでも、平和博物館として平和の問題に、今後どのようにアプローチしていくか、学校教育との連携をどう作り上げていくのか、といった課題をめぐって協議がなされた。主催館が2巡目に入る2003年度は、市民参加のシンポジウム企画を取り入れ、市民の生の声を聞けるような「博物館会議」にしたいと、次期主催館である広島平和記念資料館から提起された。

また「第6回戦争遺跡保存シンポジウム」を利用して開かれた、「平和のための市民博物館ネットワーク第2回全国交流会」においても、じっくり時間をかけ、問題を煮詰めあえる交流の場が必要であるとの積極的な意見が出され、次回から改善がはかれることになった。これらはいずれも、平和をめぐる複雑で、新しい動きが顕在化する一方で、博物館運営では来館者問題や、予算問題で厳しい現実を抱え、それゆえにこそ現状を打開し、新しい平和博物館への変革が模索されていることの現れであるともいえるだろう。『立命館平和研究』本号に、「交流会報告」として、いくつかの館の現状と問題点を報告した論文を掲載したのも、こうした問題を考える上で参考になるだろうと考えたからである。

こうした時期に、高度化・リニューアル課題に取り組むわたしたちは、全国の大きな注目を浴びているといえるだろう。わたしたちが検討し、作り上げるリニューアルの方向と内容は、こうした平和博物館のあり方に示唆を与え、展望を示しうるものでなければならないと考えている。この『立命館平和研究』自身も、こうした注目に応えるレベルにまで高度化された、ミュージアムが刊行する研究誌にならなければならないのである。

特集

2

舞鶴市明倫国民学校 梅田学級児童画

特集にあたって

特集の第2は特別展「画用紙に残された、あそこ—舞鶴市明倫国民学校梅田学級児童画展」関連のものである。

舞鶴市明倫国民学校梅田学級児童画は、梅田作次郎先生が、1939年度から1943年度にかけて、1学年から5学年まで持ち上がった学級の児童が描いた絵、約500点を整理して、保存していたものである。梅田先生が亡くなった後、児童画は当時の梅田学級児童に返却されたが、児童たちは「舞鶴市立明倫国民学校梅田学級児童画保存会」を結成し、舞鶴で展示会を開催したり、児童画をまとめて保存するための努力をされていた。その過程で、当時立命館大学文学部史学科の社会人学生だった吉田ちづゑ氏が、舞鶴での展示会を見たあと、引き続き保存会の人たちと聞き取りの取材などの繋がりを強めていく中で、卒業論文作成のために児童画を借りて研究することになった。そうした関係の中で吉田氏の尽力もあって、保存会の判断で、梅田学級児童画は2001年6月8日に立命館大学国際平和ミュージアムへ寄贈されるにいった。

国際平和ミュージアムは、吉田氏の研究に依拠して、梅田学級児童画を紹介する上記の特別展を、2002年4月18日～22日にかけて舞鶴市において、11月1日から12月1日にかけて立命館大学国際平和ミュージアムにおいて、それぞれ開催した。

両会場ではいずれも記念講演会を開催し、舞鶴では吉田氏と保存会の代表だった小森正弘氏が、国際平和ミュージアムでは吉田氏と元梅田学級児童で京都大学名誉教授の布川晃氏が講演された。

この特集で収録したのは、吉田氏の論文と布川氏の講演記録である。吉田氏の論文は、2001年12月に立命館大学文学部へ提出した卒業論文をもととし、その後国際平和ミュージアムでの特別展開催に携わり、記念講演会で講演する中での研究の進展をふまえて、加筆・訂正したものである。秋期の国際平和ミュージアムでの特別展に際して、寄贈された梅田学級児童画全点を収録

する資料集『舞鶴市明倫国民学校梅田学級児童画集』を刊行した。この資料集には資料解説を付さなかったが、この吉田氏の論文は梅田学級児童画の資料解説の意味も持っている。

布川氏の講演記録は、講演準備のメモをもとに、当日の講演では時間の関係で省略した部分も含めて、ご自身が文章化したものである。布川氏の講演は、舞鶴で育ち梅田先生の指導を受けた者として、また教育者として、当時の舞鶴の地域性、梅田先生の人となりや教育の特徴を客観的に伝えるものとなっている。